

貿易統計からみたアワビ類の輸入の現状

アワビ類は重要な磯根資源で、全国各地で漁獲されています。しかしながら、年間何十万トンも漁獲されているサバ類やアジ類、カツオなどと比べるとアワビ類の漁獲量は少なく、その貴重性から高級食材の1つとなっています。一方で、アワビの需要を賄うために海外からアワビ類が多数輸入されています。そこで、今回は貿易統計からみたアワビ類の輸入の現状についてご紹介します。

過去30年間(1981~2010年)のアワビ類の国内での漁獲量と輸入量の推移を図1に、国内での漁獲金額と輸入金額の推移を図2にまとめました。漁獲量は1980年代から1990年代にかけて大きく減少し、現在も減少傾向にあります。それに対して輸入の現状をみると、以前は輸入量が年1,000トン、輸入金額が30数億円と比較的安定していましたが、ところが、近年急激に増え、輸入量で2,000トン、輸入金額で60億円に達しようとしています。国産のアワビの単価が高いこともあり、輸入金額は漁獲金額の半分程度ですが、輸入量については国内の漁獲量に匹敵するようになってきています。

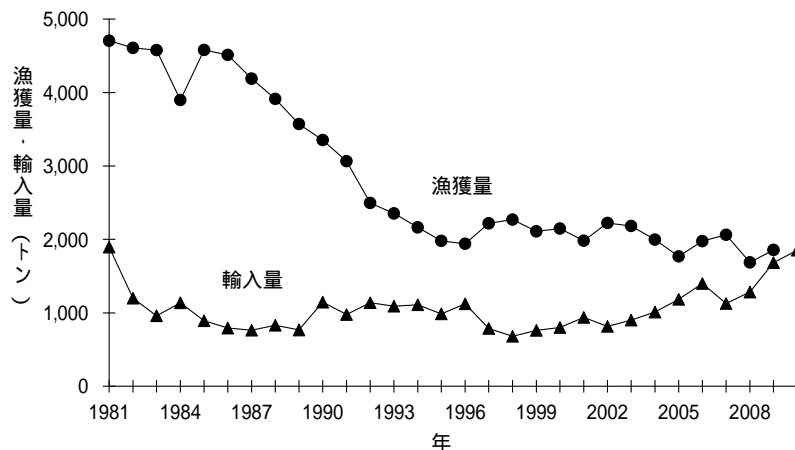


図1 アワビ類の国内漁獲量と輸入量の推移(1981~2010年)

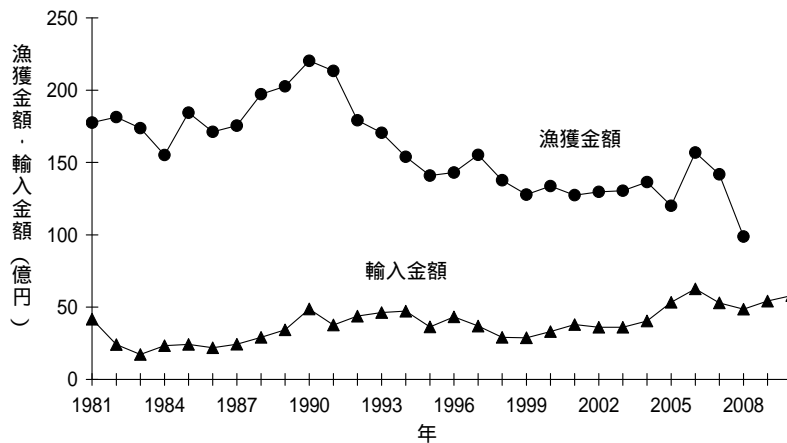


図2 アワビ類の国内漁獲金額と輸入金額の推移(1981~2010年)

さて、それでは一体どこからアワビ類が輸入されているのでしょうか？ 1988～2010年の輸入量及び輸入金額の推移について、輸入先別に図3、4にまとめてみました。図では1988～2010年の平均輸入量が10トン以上の国を選び、それ以外の国はその他としてまとめました。以前よりオーストラリアが主な輸入先でしたが、最近では韓国からの輸入量が急激に増えていることが判ります。近年急激に増えた輸入量は、ほぼ韓国からの輸入物であると言えます。また、チリからの輸入量も多くなっていることが判ります。一方、北朝鮮やフランス、ニュージーランドからの輸入量は減っています。また、その他に含まれる国として、カナダやメキシコ、ペルー、ベトナム、マレーシア、フィリピンからの輸入量も減っています。

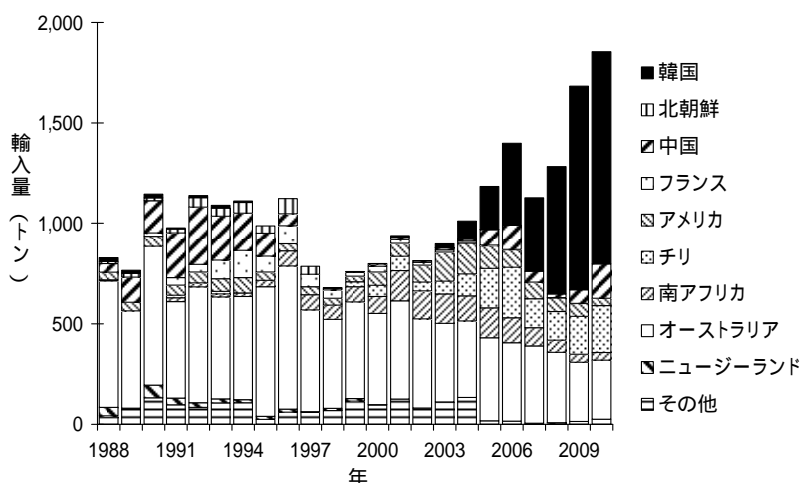


図3 輸入先別の輸入量の推移(1988～2010年)

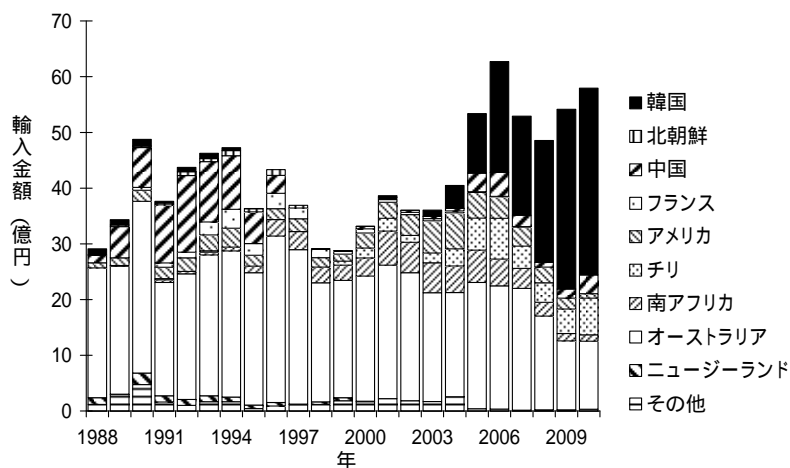


図4 輸入先別の輸入金額の推移(1988～2010年)

最近ではインターネット上でもアワビの通信販売サイトが簡単に見つけることができます。国内産のアワビ類以外では、よく見つけられるのが、韓国産の養殖エゾアワビや、オーストラリア産の養殖ウスヒラアワビ（Greenlip

abalone; 学名 *Haliotis laevis*), チリ産の養殖アカネアワビ (Red abalone; 学名 *Haliotis rufescens*) などです。また、漁協や水産会社の直売所でも韓国産の養殖エゾアワビが販売されています。輸入量が多いものが、飲食店で使われるだけでなく、一般にも販売されていることが判ります。

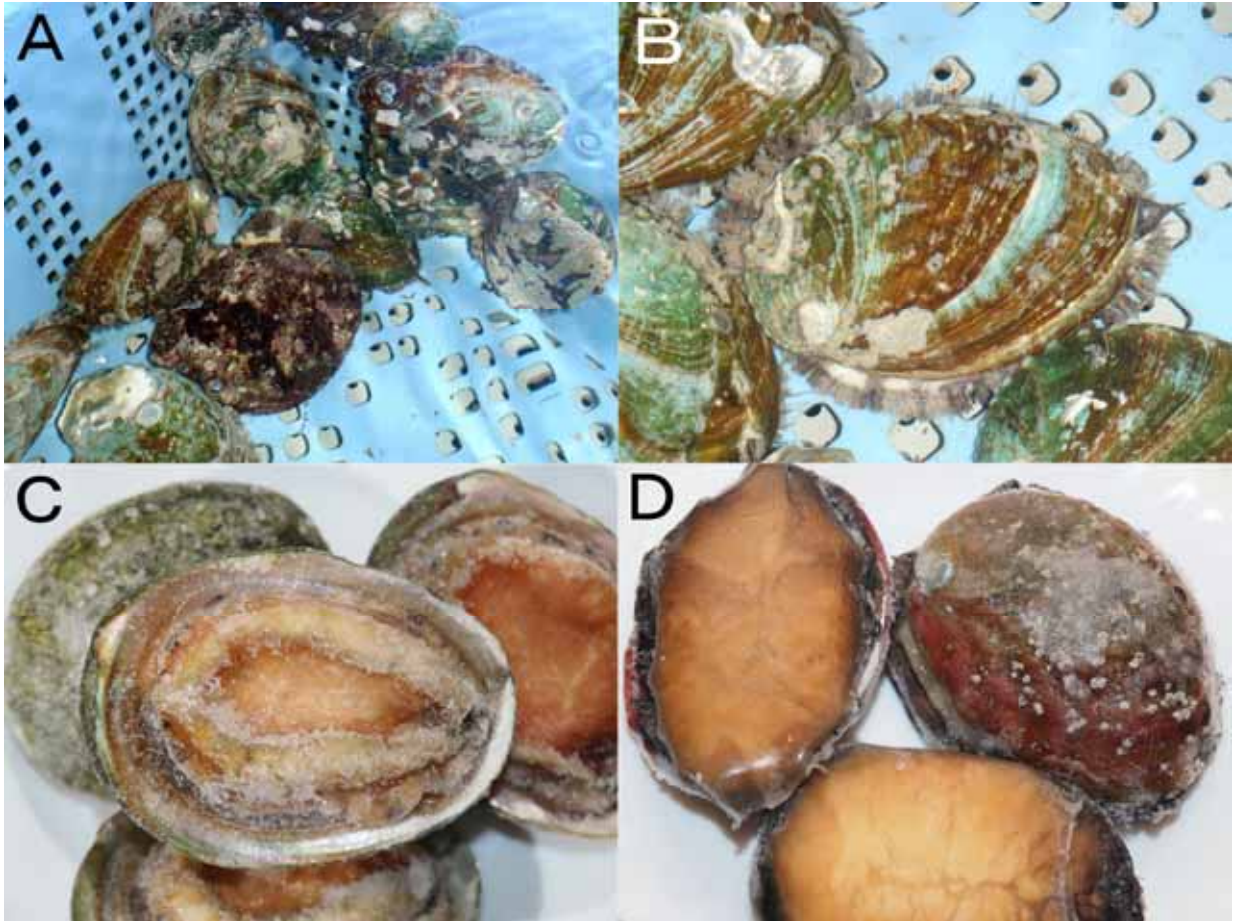


図5 輸入物のアワビ

(A、B：韓国産、C：オーストラリア産、D：チリ産)

実際にどのような状態で輸入されているのでしょうか？ 貿易統計上の品目別にみると、アワビ類は「生きているもの、生鮮のもの及び冷蔵したもの」(活・生鮮・冷蔵)と「冷凍したもの」(冷凍)に分かれています。アワビの平均輸入量が多い国について、活・生鮮・冷蔵と冷凍の割合を図6にまとめました。韓国や南アフリカ、中国、アメリカは活・生鮮・冷蔵が8割以上、チリや北朝鮮、ニュージーランド、フランスでは冷凍が9割以上で、オーストラリアは6：4で冷凍が多いことが判ります。先ほど述べましたネット上で販売されているアワビ類をみると、韓国産は活かした貝で、オーストラリア産やチリ産は冷凍した貝が多くなっています。

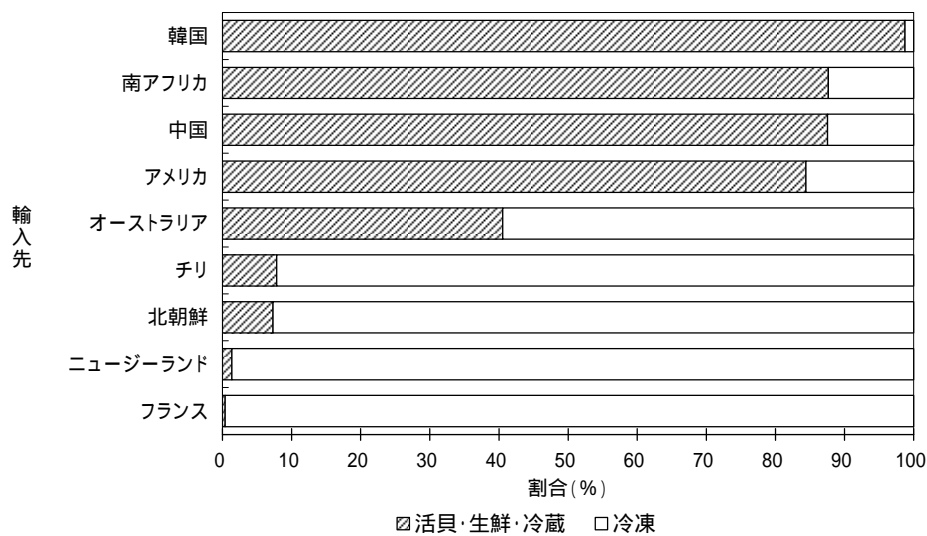


図6 主な輸入先における輸入量の品目別割合(1988～2010年平均)

値段についてはどうでしょうか？ 輸入金額（図4）を輸入量（図3）で単純に割って出した単価を図7に示しました。オーストラリア産は高め、チリ産は低めを推移し、韓国産は輸入量が少なかった頃は高かったのですが、近年は低くなっています。輸入量が増えたためなのか、国内の景気が悪くて高いものが売れないのか、全体的にここ数年は低くなっている傾向があります。実際にインターネット上で調べてみると、輸入物のアワビは1kgで4,400～9,800円程度で販売されているようです。ちなみに国産のアワビは1kgで9,500～18,900円程度です。まだ、国産物が高く評価されているようです。

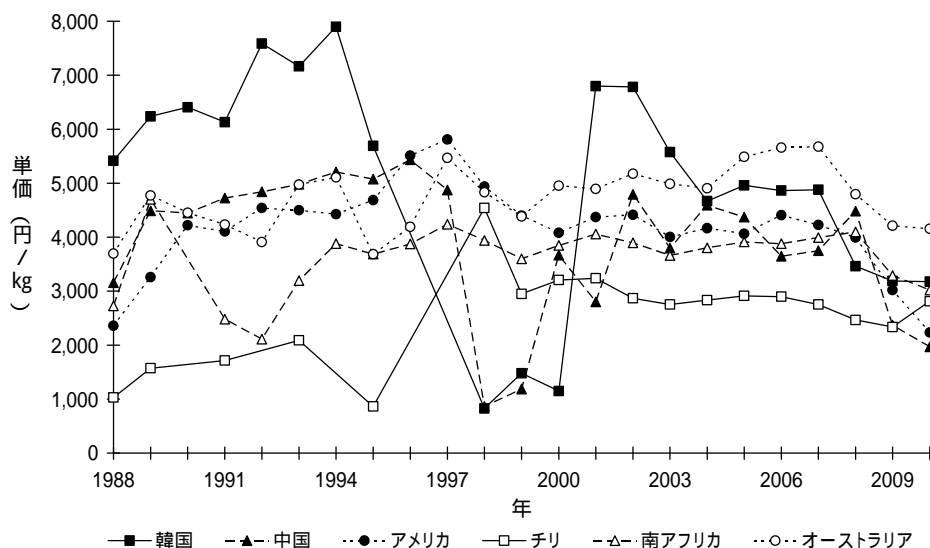


図7 主な輸入先における輸入時の単価の推移(1988～2010年)

アワビ類の輸入の増加が、国内のアワビ漁業や養殖業にどのような影響を与えるようになるのかわかりませんが、今後はブランド化などいろいろな取り組みが必要になってくるのではないかと思います。

(参考)

輸入量のデータを入手するためには、インターネットの税関のホームページ (<http://www.custums.go.jp/>) にアクセスして、「貿易統計」「統計表一覧(ダウンロードページ)」「品別国別表」「2008年まで」「年別選択品別国別表の12月」「閲覧希望の番号:001番1部01~05類のPDFあるいはCSV」をクリックすると年別のデータがダウンロードできます。あるいは「品別国別表」以降、「輸入」「年の12月」「年12月分品別国別表(輸入1-12月):確定1部01-05類のCSV」をクリックすると年別のデータがダウンロードできます。

直近のデータは、「貿易統計」「貿易統計検索ページ」「普通貿易統計の品別国別表」をクリックし、条件入力で輸入、月日、品目コード、国を指定して「検索」をクリックすると指定した月のデータが表示されます。

アワビ類の品目番号(コード)は、活・生鮮・冷蔵が「0307.91-450」、冷凍が「0307.99-142」となります。また、缶詰や瓶詰のような気密容器入りのものなど加工されたものは「1605.90-291 や 1605.90-292」と別にまとめられています。なお、品目番号は輸入統計品目表(実行関税率表)の実行関税率表(年月)にいろいろ記載されています。

(伊藤 円)